

- I. メールによる会員連絡の実施について
- II. 大会実行委員会からのお知らせ
- III. 編集委員会からのお知らせ

## I メールによる会員連絡の実施について

日本科学哲学会 会長  
丹治信春

本学会ではこれまで、会員の皆様への連絡は、主として郵送で行なってまいりました。しかし、いくつかの他学会と同様に、郵送ではなく電子メールを用いれば、経費削減と迅速な連絡を実現することが可能です。そこで、この件について6月27日の理事会で審議を行なった結果、今後、会員の皆様への連絡は、可能な場合には原則として電子メールで行なう、という基本方針が決定されましたので、ご報告申し上げます。

まだ時期や内容について詳細は固まっておりませんが、大まかな方向としては、ニュースレターや年次大会案内、また日本学術会議からのお知らせや講演会のご案内などは、今後、電子メールで会員の皆様方に配信する予定です。学会誌『科学哲学』や会費納入のお願いなどは、従来通り、郵送によります。詳細が決まり次第、ニュースレターや学会HPで会員の皆様方にご連絡申し上げます。

つきましては、電子メールをご使用でありながら、まだそのアドレスを事務局へ通知されていない会員の皆様は、お早めにアドレスを通知くださるようお願い申し上げます。その際、携帯電話のメールはお避けください。(従来通り、郵送を希望される方はお申し出下さい。お申し出のない限り、メール配信に自動的に切り替えさせていただきます。) また、電子メールをお使いにならない会員の皆様には、電子配信した内容を印刷して、それを郵送で送付いたしますが、経費削減と迅速な連絡を実現するために、なるべく多くの会員の皆様方にご協力をお願いしたいと存じます。以上、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## II 大会実行委員会からのお知らせ

大会実行委員長  
並木雅俊

### 1. 日本科学哲学会第42回(2009年度)大会〔会場:高千穂大学〕のプログラムについて

今年度大会のプログラムは、以下を予定しています。

\*各プログラムの開始時刻、ワークショップ題目等の変更がありうることをご了承下さい。また今年度は例年と違い、シンポジウムを日曜日に、ワークショップを土日両日とも開催しますのでご注意ください。

11月21日(土)

研究発表(10:00-12:30)

理事会・評議員会・大会実行委員会(12:30-13:45)

総会〔石本賞授与式〕(13:45-14:15)

ワークショップ(14:15-16:30)

- I. 論理学教育：論理学のヘビーユーザとしての哲学者養成に向けて  
オーガナイザー：村上祐子(東北大学)  
提題者：飯田隆(慶應義塾大学)、岡本賢吾(首都大学東京)、竹内泉(産業技術総合研究所)
- II. ダーウィン生誕200年ワークショップ  
オーガナイザー：横山輝雄(南山大学)  
提題者：木島泰三(法政大学)、中尾央(京都大学)、矢島壮平(東京大学)

特別講演(16:45-17:45)

講演者：並木雅俊(高千穂大学人間科学部教授)

懇親会(18:00-20:00)



11月22日(日)

ワークショップ(9:30-11:45)

- III. 実践のロジックと規範  
オーガナイザー・提題者：竹内聖一(東京大学)  
提題者：鈴木聡(駒澤大学)、村上祐子(東北大学)
- IV. プラグマティズムから生態心理学へ——意識と環境の实在論——  
オーガナイザー：河野哲也(立教大学)  
提題者：伊藤邦武(京都大学)、齋藤暢人(早稲田大学)、三嶋博之(早稲田大学)

理事会・編集委員会・大会実行委員会(11:45-12:45)

研究発表(13:00-14:30)

シンポジウム(14:45-17:15)

〔知と科学知：科学コミュニケーションの文脈から〕

司会・提題者：小林傳司(大阪大学)

提題者：池内了(総合研究大学院大学)、伊勢田哲治(京都大学)



## 2. 研究発表の募集について

今年度大会の研究発表の希望者を募ります。希望される方はeメール添付のファイルか郵送にて、発表要旨〔B5版用紙1枚にワープロで800字程度、上部に題目・氏名・所属を明記のこと—採用の際はご提出頂いた原稿をそのまま予稿集の版下とします—〕を事務局宛にお送り下さい。この時メール本文もしくは別紙に、研究発表に際してプロジェクト等の機器を使用する予定の有無についてもお書き添えください。

締切は8月31日(月)必着とします。

なお、電子データ(eメール上での添付ファイルまたはフロッピーディスク)でお申込される場合は、本学会ホームページで「第42回大会 研究発表要旨作成上の注意」を公開しておりますので、そちらもご参照願います。

採否ならびに発表の通知は9月20日頃にeメールで行います。メールアドレスをお持ちでない方には郵送いたしますので、送付先を明記くださるようお願いいたします。

発表期日および時刻は、プログラム編成の観点から大会実行委員会で決定いたします。特定の日付・時刻を希望されても応じられませんのでご承知おきください。

### 3. お子さん連れで大会へ参加される方のために——託児施設利用にあたっての補助金申請について

ニューズレターNo.40で丹治会長からお知らせしたとおり、昨年度より、お子さん連れで大会へ参加され、開催時間に一時託児施設を利用される会員に対して、補助金を支給することとなりました。今年度は以下の要領で申込を受け付けます。

- (1) 補助金額は、1会員につき、お子さん1人あたり1日5000円とします。
- (2) 7月中旬に希望者用申請フォームをホームページに掲載しますので、ご記入の上10月5日(月)までに事務局までお送り下さい。補助金については、大会終了後に利用施設の領収書(またはそのコピー)を提出していただき、後日お振込いたします。ただし、事情により大会当日の支給を希望される場合は事務局までご相談下さい。
- (3) その他ご質問等は事務局までお願い致します。

また託児施設を利用されない場合も、大会会場内にお子さん連れの会員のための休憩スペースを準備しますので、ご自由にお使いください。但し、開催期間中のお子さんの安全については、各会員で責任をもって監督してください。

詳細はホームページへ順次掲載しますので、随時ご確認をお願い致します。

### 4. プログラムの発送について

プログラム、出張依頼状等は10月上旬頃に発送する予定です。シンポジウムおよびワークショップ資料はホームページに掲載いたします。

## Ⅲ 編集委員会からのお知らせ

編集委員長  
野矢茂樹

### 1. 『科学哲学』第42巻2号(2010年1月発行予定)の特集テーマについて

ニューズレターNo.43でお知らせした次号の特集テーマ「脳科学と社会」への応募論文は、2009年7月13日をもって締め切りとなりました。ただし、自由応募論文として同じテーマに関連する論文をご投稿いただくことは、引き続き可能です。その際、次号に掲載可能な期限内で審査を終えることができない場合がありますのでご承知おきください。

## 2. 自由応募論文について

自由応募論文は随時受け付けています。なお、論文本体（これはレフェリーに転送されることになります）には論文タイトル（日本語と英語）と英文要旨のみを付けることとし、著者氏名と所属については、別に添付した表紙に記して下さるようお願い申し上げます。

また、『科学哲学』は第41巻1号から、J-STAGE (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>) で公開されることになりました。そのため、論文（サーヴェイ論文、研究ノート、討論、提言を含む）では、書誌情報を注に記さずに、論文の末尾に文献表としてまとめて記して下さい。

日本科学哲学会ニューズレター No. 44 2009年7月25日

編集兼発行 日本科学哲学会

事務局 〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部哲学研究室内  
Fax. 03-5317-9217〔宛名「日本科学哲学会」を必ず明記して下さい〕  
Tel. 03-5317-9702

※学会専用電話ではありませんので、電話での連絡は緊急の場合のみにしてください。

e-mail: [philsci@chs.nihon-u.ac.jp](mailto:philsci@chs.nihon-u.ac.jp)

URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/pssj/>

印刷 株式会社文成印刷 〒168-0062 東京都杉並区方南 1-4-1